

2019年8月19日

日本原子力学会安全部会
第7回夏期セミナー

開会挨拶

原子力安全部会における活動の紹介

原子力安全部会 部会長
関村 直人 (東京大学)

原子力安全部会(2008年設立)の役割

- ✓ 原子力安全に係る事業者、メーカー、研究機関・大学等、規制行政、推進行政や関連する広く多様な立場から、考え方の共通点と相違点についてオープンな議論を実施
- ✓ (細分化されてしまった)分野、領域、組織を串刺しにして、将来の目指すべき方向を議論し、発信する場として機能
- 2012年に8回にわたって「福島第一原子力発電所事故に関するセミナー」を開催
- 2013年3月には、議論の結果をまとめたセミナー報告書を発刊し、日本原子力学会事故調査報告書の基盤を形成
- これ以降、秋の大会・春の年会では、部会の「企画セッション」により個別の論点を提示し、議論
 - 後日、これらの論点について時間を確保して議論するための「フォローアップセミナー」を開催
 - 外的事象対策、リスク情報活用、安全研究、原子力防災、福島第一廃炉の現場、安全目標等の検討課題を同定

原子力安全部会の最近の主な活動

- 2016年春の年会 「福島第一原子力発電所における今後のリスク要因とその防護策」
 - フォローアップセミナー
- 2016年秋の大会 「安全目標の活用にかかる現状と課題」
- 2017年春の年会 「原子力安全文化醸成への取組みの現状と課題」
 - フォローアップセミナー
- 2017年秋の大会 「この5年間の原子力規制を踏まえて
–原子力安全部会の認識-」
 - フォローアップセミナー
- 2018年春の年会 「外的事象に対する包括的な安全確保の体系の現状と課題」
 - フォローアップセミナー(台風のために延期して、11月に実施)
- 2018年秋の大会 「福島第一原子力発電所事故の解明の進展から学ぶ」

原子力安全部会の主な活動

- 2019年1月25日 原子力安全部会設立10周年 記念講演会

[原子力安全部会からの報告] 原子力安全部会のこれまでの歩み	阿部清治 (前部会長、東北大学)
[特別講演] 福島第一原子力発電所の事故 原子力安全部会の使命	田中俊一 (原子力規制委員会前委員長)
[招待講演] The Role of NRRRC and Collaboration with Activities of Academic Societies	ジョージ・アポストラキス (NRRRC所長)
[招待講演] 原子力安全の目標達成に向けた産業界の取組み (原子力エネルギー協議会の活動状況)	門上 英 (ATENA理事長)

- 2019年春の年会(茨城大学、2019.3.20-22)

「新検査制度と原子力発電所の安全性」

– フォローアップセミナー(東京大学、2019.7.16)

- 2019年秋の大会(富山大学、2019.9.11-13)

「ソースターム評価に関わる諸課題と今後の取組み」

10周年記念講演会 総合討論から

- **安全性向上を合理的に継続して行くための規制、産業界、学協会の役割と連携**
 - ✓ 産業界は規制と見解を交換しつつ、自主的かつ合理的に安全性向上に努力する。学協会の場合では向上策の中身や優先順位について、標準化も視野に入れて、本質を見抜く議論を戦わせる。
- **米国、IAEAなどの海外規制や安全性向上活動の我が国への導入**
 - ✓ 自然災害のリスク要因が大きい我が国において、今後のリスク情報活用や新たな検査制度の導入を如何に進めてゆくべきかは論点。
 - ✓ PRAを安全性向上の熟慮の意思決定に組み入れることは重要だが、適切な防護とは何かを考えることも重要。(ハードや人的因子だけではなく、経営やマネジメントの劣化も事故の要因となる。)
- **自然災害などの外的事象に対する安全性向上**
 - ✓ 自然災害は日本にとって大きな課題である。地震の専門家、防災の専門家に横串を刺す部会として、どのような対策をとり、どのような意思決定プロセスをとればよいのかを考えることが重要。
 - ✓ 頻度がある程度高い事象は、見落とさないように備えるべき。
- **その他**
 - ✓ 将来の新設炉に対する安全と規制について、国際的な議論も踏まえてより広い立場で検討を進め、原子力安全部会として貢献する。

本夏期セミナーでの組織、世代や専門性を超えた活発な議論を期待しています。

